



雪の学舎
平山 幹昌(昭和28年卒)



巻頭リレーエッセイ

先輩へ

ソーシャルディスタンスが浸透したコロナ禍で、心の距離まで遠くならないよう同窓生をつなぎ続ける人がいる。

現役時代は弓道部で応援団、相撲研究会まで作り、大学には6年間通った。私服は商大カラーのえんじ色にこだわり、演舞「胡蝶の舞」は今も自分が一番だと思っている。大学では有名だったその先輩からSNSで「友達リクエスト」が届いた時、少し驚きながら「承認」ボタンを押した。

それまでの私は人付き合いが苦手で、独りでいる方がむしろ楽だった。だが、先輩がその後つなげてくれた縁は私に、人の幸せは人との間に生まれる、と教えてくれた。

1,200人を超える「友達」に、誕生日メッセージを送るのが朝の日課。「その原動力は何ですか?」と尋ねたら、「商大を好きになってもらいたいから」と答えた。これからも、商大同窓生の応援団長をお願いしますね。

石出 未佳子
(平成4年卒)



新年ご挨拶

～母校応援、同窓の絆～

緑丘会札幌支部
支部長

山田二郎
(昭和45年卒)



明けましておめでとうございます。

新型コロナに日本はもとより世界中が翻弄された一年でした。

会員の皆様には新しい年をこの未曾有の危機をみんなの力で一刻も早く終息させたいとの思いでお元氣にお迎えのこととお喜び申し上げます。

同窓会の使命は「我々卒業生相互の親睦を図ること」そして「どんな時代にあっても母校が社会から必要とされる大学であり続けるよう支援・応援を続けていくこと」と常々考えているところですが、前者はコロナ騒ぎで親睦交流の機会が得られず、辛うじて滑り込みセーフで実行出来た新年交礼会の賑わいが懐しく思われます。一方後者は皆様のご支援・ご協力を頂きながら、学生支援の緊急奨学金支給、創立110周年記念募金活動そして全国の高校への母校PR広報活動などで実績を上げることが出来ました。この紙面をお借りして心から感謝申し上げます。

そして、私事ながら2020年は我々が同期の卒業50周年記念の年であり、10月に集まろうと計画、案内をしたのですが、やはりコロナの為に残念ながら取り止めとなりました。しかし今年度で8回目になる先輩たちから引き継がれてきた卒業50周年記念講座を予定通り10月14日、無事学生へ届けることが出来ました。詳細は同期の萩本さんのレポートでお伝えします。

卒業して半世紀、今年度の一年生には残念ながら入学式が出来ませんでした。54年前の入学式を思い出しました。新任の實方正雄学長のお話で覚えていることが2つあります。1つはあなた方の人生で3冊の書籍を読むことを薦めると「資本論」「聖書」そして大杉栄の「正義を求める心」と仰いました。2つ目はこの大学の4年間で「誰が正しいかではなく何が正しいかを思索できる能力を育ててください」と。

香山リカさんの講義に対する受講学生の感想を後日目にすることがあり、リモート授業環境にも拘わらず大変しっかり理解し、要点を認識して自分の感想を述べている学生さんたちがとても多かったことに心打たれました。

「What is right Not Who is right」

社会に出てから嫌というほど誰が正しいかで悩まされ試された過去を思うにつけ、母校の学生はしっかり勉強中です。そして4月には困難な環境下での受験勉強を余儀なくされながらも母校での大学生活を求める新1年生が誕生します。コロナの勢いは今しばらく続くでしょう。本年も一層の学生支援にお力添えをお願いします。

皆様のご健勝ご多幸を祈念申し上げ新年のご挨拶といたします。



ウィズ・コロナ時代の大学

小樽商科大学長
穴 沢 真



新年明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひ致します。OB・OGの皆様のご健勝を心よりお祈り申し上げます。また、昨年はコロナ禍で経済的に困窮した学生向けの支援にご協力頂きましたことに改めて御礼申し上げます。

昨年4月に学長に就任して以来、まず、新型コロナウイルス対策に明け暮れることになりました。入学式は中止となり、5月7日から遠隔授業を開始しました。前期はすべて遠隔教育となりましたが、後期は遠隔授業と対面授業、さらには両者を融合したハイブリッド授業を進めています。

本学は三大学の経営統合を目指し、その一環として遠隔授業の準備を進めていたため、他大学に比べるとその導入時の混乱は少なかったといえます。しかし、遠隔授業の準備は多くの教員にとって初めての経験であり、授業コンテンツも講義により差がありました。学生にとっても自宅や下宿での遠隔授業の受講はこれまでの学び方と大きく異なるだけでなく、ストレスの多いものとなりました。

今回のコロナ禍でわかったことは対面の大切さです。人と人が面と向かってコミュニケーションをとることの重要性を私たちは改めて知ることになりました。入学式が中止となり、遠隔授業のみを行っていた前期の間に特に1年生のストレスが溜まっていたことがアンケートなどからも明らかになりました。昨年9月にオリエンテーションを行い、初めて1年生と接したときは彼らのようやく大学に来たという気持ちが強く伝わってきました。

就職活動もTV会議を使っただけの面接など、これまでと様変わりしました。幸い昨年の採用者数は一部の業種を除いては大きな変化がなく、本学の学生の就職率もほぼ例年並みとなりそうです。しかし、コロナの経済活動への影響は長期化が予想され、今年の採用については予断を許さない状況が予想されます。本学としてもしっかりと学生の就職活動をサポートしていきたいと思ひます。

コロナは大学のみならず、我々の生活を根底から覆した感があります。大学の授業が遠隔中心となっただけでなく、テレワークの増加、三密の回避などこれまでの日常は「新しい日常」への転換を迫られました。

ご存じのように、本年は本学創立110周年の年となります。記念事業や式典も予定しておりますが、7月7日の創立記念日にコロナ禍が収束しているかどうか、全く予想ができません。状況によっては日程の変更なども検討する必要があると思ひます。

また、三大学経営統合まで残すところ1年余りとなりました。北海道初の国立大学の経営統合であり、商・農・工の単科大学の統合であることに大きな期待が寄せられています。ウィズ・コロナ時代でも北海道経済の課題を解決し、北海道の発展に資する人材の育成、研究の推進という大きなビジョンのもと、統合の実をあげて行きたいと思ひます。

—活躍する緑丘人—

小樽から旭川家具への感動の道

白鳥 孝

(平成2年短大卒)

(株)カンディハウス道央支店 マネージャー



私には5歳上の兄がおり、先に小樽商大短期大学部に進学していたこともあって、昼はバイト、夜は札幌から小樽へ大学に通うことが、家計の事も考えて大学進学する道だと自然と思っていました。大学では高井ゼミの英語・異文化コミュニケーションで学び、世界の方々と交流しながら仕事ができるようなことを想像していましたが、様々なバイトをしているうちにフリーターをしながら表現者や役者になることも夢見て、札幌のミュージカルのオーディションを受け舞台に立つことも経験しました。

しかし、あるとき北海道新聞に出ていたインテリアセンター（現 カンディハウス）の小さな社員募集広告に「勤務地アメリカ」というフレーズをみて、海外勤務もあるのだと思い夢が叶うかもと漠然と思ってエントリーをしました。しかし、入社試験会場にはインテリアの世界を夢見る 建築・デザインを専攻して勉強してきたと思われる数多くの学生がおり、まず無理だな…と諦めつつ、最後の作文で「人生で感動したこと」というテーマで、短大2年の時にミュージカル初舞台で感動したことを書いてみました。最後のカーテンコールで観客からの大きな拍手を受け感動した時のことを書いたことが、

もしかしたらカンディハウスの創業者の長原 實さんの目にとまり入社に至ったのかも…なぜなら長原 實さんも小さいころオペラ歌手になりたかったと雑誌にかいてありましたから（笑）。ちなみに、アメリカへの赴任は実現していません…。

長原さんは家具職人修行でのドイツ滞在のおり、港でみた優良なミズナラの丸太に「OTARU」と刻印されていたのを目の当たりにし、帰国後、家具メーカーを立ち上げ「旭川家具」を世界に通用する産業・ブランドに発展するべく、世界のデザイナー、アーティストを旭川に招聘して国際家具デザインコンペを30年続けてきました。また、家具産業が地元の若手に継承するような学校支援なども積極的に行い今日に至ります。

私は小樽でも家具やデザインを通じて何かできることが無いかと考え、12年前からZENICUBEというCUBE型のデザイン創作活動を小樽工業高校の学生とコラボしたのがきっかけで、12年間で12個のCUBEデザインを展開しました。その後JR銭函駅・札幌市役所1F元気カフェ・岩見沢5条ホテルロビーなどで待合い家具としても採用頂きました。2020年10月10・11日には初のCUBE個展を開催させていただき、小樽商大のOBの方々にもご参加いただきましたことを心から御礼申し上げます。今後の小樽商科大学は、新たな感動を呼ぶ実業・デザイン創造を通じて国際交流しながら益々発展することを期待しております。



カンディハウス道央ショップ

卒業60周年記念文集「紙上交歓会」を作成

小野 邦夫
(昭和35年卒)

昭和35年卒の私共は令和2年が卒業60周年です。「緑丘」編集が長い坂本信之君が、令和元年7月、本州勢の「60周年を北海道で」との声を携えて、札幌へ来ました。これを受けて、札幌で毎月第2火曜開催の同期会は、岡部三男君を委員長とする60周年の準備の場となりました。実態調査の結果、健康上の理由での欠席が多く、参加予定者は30名前後という厳しい結果が出ました。

令和2年10月、小樽で60周年を祝う事で骨子が固まった直後、新型コロナウイルス問題が発生しました。開催か中止か迷う中、10年後輩は50周年の集まりを中止しました。80数才という年齢や治療中の友の多い事を考えると、いつ開催出来るか判らない60周年を「当面中止」とするだけでは済まされません。予定した記念大会は中止ですが、「今」を何らかの形で残したいと考えました。決まった内容は文集の作成でした。原

稿は原則としてハガキ1枚です。提出原稿のコピーを貼り付ける編集なので、文字の大きさを分量調整が出来ます。それでも書き切れない人は別原稿もOKとして呼び掛けました。当然、経費の拠出もお願いしました。編集から製本まで総て自家賄いです。

高齢者故の対策として「まだ時間がある」と後回しにして忘れられないように電話をしたり、1人でも多くの人への案内をと緑丘会札幌支部に住所調査で協力いただいた結果、提出された原稿はご遺族3名を含む60名でした。原稿は書けないが文集は欲しいという人もいて、経費拠出者は原稿提出者数を上回り、令和2年11月、表紙を日展入選前田浩君の絵で飾る文集が完成しました。



「コロナ禍で悩む学生への一助に」 エバーグリーン講座の寄付講座を終えて

萩本 和之
(昭和45年卒)

卒業50周年記念事業として昭和45年卒業生が10月14日、エバーグリーン講座への寄付講座を行いました。講師は小樽で小中学校を過ごして「小樽が故郷」という精神科医で、立教大教授でもある香山リカ先生。テーマは「コロナ感染症は私たちの生き方をどう変えるか? —精神医療の現場から」。受講生に対して臨床医での経験をもとに、今のコロナ禍に伴う心理的な不安の正体を見極め、除去することの大切さ、さらに認知バイアス(物事を理解する際に自分流に捻じ曲げる)に陥る危険をしっかりと意識することなどを分かりやすく解説。さらにアフガニスタンでの人道支援をしていた中村哲医師の生き方などの紹介がありました。

この寄付講座は伊藤光安(札幌)と大橋克也(東京)を代表幹事として、10人以上の卒業有志で同期会実行委員会を結成。1年以上前から寄付講座と懇親会の2本柱を計画に同期生に呼び掛けてきました。

しかし、コロナ禍の拡大で懇親会は来年へ延期、寄付講座だけとなりました。これまでの寄付講座の講師はいずれも男性だったこともあり、山田二郎幹事(緑丘会札幌支部長)の意向もあって、女性に絞り人選を

進めてきました。

講義には大学で11人、東京でリモート受講者6人の同期17人が受講。この寄付講座の意義の一つは学生のみなさまに卒業50年後をイメージしてもらい狙いもあり、香山先生も小樽や商大の魅力を強調するとともに「学生生活を明るく意欲的に行動して、卒業50年を迎えてください」とも呼び掛けて頂けました。学生からの受講感想文は非常に高い評価で、有意義な寄付講座になったようです。

この講座が無事に実現できたのも緑丘会札幌支部や大学の事務局の方々、さらに講座実行委員会の小椋俊秀委員長や担当教授の大津晶先生のお蔭です。感謝申し上げます。



寄付講座後の懇親反省会。講師の香山先生(右から4人目)、担当の大津教授(左から2人目)

今年度の定時総会が中止となりましたので、令和元年度決算及び令和2年度予算を誌面にてご報告申し上げます。

①正味財産増減計算書

正味財産増減計算書
(平成31年4月1日から令和2年3月31日まで)
(単位:千円)

科目	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 定時総会事業収益	1,187	1,020	167
② 新年交際会事業収益	1,684	1,989	△ 315
③ 緑丘さっぽろ実行事業収益	150	153	△ 3
④ その他の収益	2,321	2,189	132
本部事務所受入負担金	500	500	0
支那会費収入	1,595	1,615	△ 20
雑収入	226	74	152
経常収益計	5,342	5,361	△ 19
(2) 経常費用			
① 事業費	3,127	3,445	△ 318
会議費	2,476	2,646	△ 170
通信運搬費	159	154	5
消耗品費	131	242	△ 111
印刷製本費	361	363	△ 2
謝礼金	0	40	△ 40
② 管理費	2,395	2,293	102
総務手当	1,172	1,193	△ 21
会議費	27	44	△ 17
旅費交通費	159	156	3
立入料	186	203	△ 17
通信運搬費	312	291	21
消耗品費	69	138	△ 69
印刷製本費	44	72	△ 28
渉外費	154	154	0
その他の管理費	272	42	230
経常費用計	5,522	5,738	△ 216
当期経常増減額	△ 180	△ 377	197
一般正味財産増減高	5,244	5,704	△ 460
一般正味財産期末残高	5,064	5,244	△ 180
II 正味財産期末残高	5,064	5,244	△ 180

②貸借対照表&財産目録

貸借対照表
(令和2年3月31日現在)
(単位:円)

科目	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金及び預金	1,335,796	1,643,510	△ 307,714
その他流動資産	120	0	120
流動資産合計	1,335,878	1,643,510	△ 307,634
2. 固定資産			
(1) 特定資産	0	0	0
(2) その他固定資産	3,736,860	3,600,000	136,860
固定資産合計	3,736,860	3,600,000	136,860
資産合計	5,072,738	5,243,510	△ 170,774
II 負債の部			
1. 流動負債			
その他流動負債	9,537	0	9,537
負債合計	9,537	0	9,537
正味財産の部			
一般正味財産	5,063,199	5,243,510	△ 180,311
正味財産合計	5,063,199	5,243,510	△ 180,311
負債及び正味財産合計	5,063,199	5,243,510	△ 180,311

財産目録
(令和2年3月31日現在)
(単位:円)

貸借対照表科目	場所・数量等	使用目的等	金額
(流動資産)			
現金及び預金	現金 手元保管	運転資金として	32,888
	金 普通預金		641,209
	北洋銀行本店	運転資金として	97,106
	北海道銀行本店	運転資金として	60,787
	北海道信用金庫本店	運転資金として	56,028
	ゆうちょ銀行	運転資金として	352,121
	ゆうちょ通算貯金	MPF口座として	95,617
	北洋証券本店	本部署設立費として	420
その他流動資産	立 替 金		1,335,878
流動資産合計			3,736,860
(固定資産)			
その他固定資産	器具 備品 パソコン 1台	業務経費のための使用	136,860
	投資有価証券 北海道電力債	長期保有目的で保有し、運用を優先的に償還として使用	3,600,000
固定資産合計			3,736,860
資産合計			5,072,738
(流動負債)			
その他流動負債	預り 金	女子部会からの預り金	9,537
負債合計			9,537
正味財産			5,063,199

③ 監査報告書

監 査 報 告 書

緑丘会札幌支部
支部長 山田 二郎 殿

私たちは、緑丘会札幌支部会則第9条第4項の規定に基づき、緑丘会札幌支部の平成31年4月1日から令和2年3月31日までの令和元年度の会計監査を実施した。

監査の結果、緑丘会札幌支部会計細則に従い適正に処理されており、貸借対照表及び正味財産増減計算並びに財産目録は当支部の収支及び財産の状況を正しく示しているものと認める。

令和2年6月1日

監 事 小川 敏也 
監 事 志村 聖子 

④ 正味財産増減予算書

正味財産増減予算書
(令和2年4月1日から令和3年3月31日まで)
(単位:千円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経費増減の部			
(1) 経費収益			
① 定時総会事業収益	0	1,000	△1,000
② 新年交礼会事業収益	1,600	1,950	△350
③ 緑丘さっぽろ発行事業収益	120	120	-
④ その他収益	2,560	2,823	△263
本部事務所受入負担金	500	500	-
支部会費収入	1,600	2,258	△658
雑収入	460	65	395
経費収益計	4,280	5,893	△1,613
(2) 経費費用			
① 事業費	2,100	3,438	△1,338
会議費	1,400	2,670	△1,270
通信運搬費	160	155	5
消耗品費	180	233	△53
印刷製本費	360	360	-
雑金	0	20	△20
② 管理費	2,180	2,455	△275
総料手当	900	1,300	△400
会議費	40	50	△10
旅費交通費	160	160	-
広報費	190	200	△10
通信運搬費	310	300	10
消耗品費	60	130	△70
印刷製本費	50	80	△30
渉外費	160	160	-
その他の管理費	310	75	235
経費費用計	4,280	5,893	△1,613
増減差増減額	0	0	-
II 一般正味財産増減	5,064	5,244	△180
一般正味財産期末残高	5,064	5,244	△180
III 正味財産期末残高	5,064	5,244	△180

令和2年度エバーグリーン講座

小 椋 俊 秀
(昭和58年卒)

エバーグリーン講座とは、さまざまな分野で活躍されている小樽商大卒業生を特別講師としてお招きし、在学生のキャリア形成のビジョンや在学中の修学目的の明確化に役立ててもらおうという講座です。昭和62年度から始まった講座も今年度で34回目となりました。

いつもは160番教室が学生で満席になる状態なのですが、今年は新型コロナ対策で教室入場者を定員の三分の一までに制限し、残りの学生はインターネットを使ったオンデマンド方式で受講してもらっています。

今年度も別表にある通り15講義が用意されて、今のところ順調に進んでいます。30歳以下の若手に語ってもらうU-30（アンダーサーティ）の3名の講師はZoom

による遠隔からの参加でした。また、12回目の富澤さんは北京からのZoom参加を予定しており、遠隔地からの参加も今後は増えてくるかもしれません。

私どもエバーグリーン講座実行委員会は少しでも学生の役に立つよう、そして正式な単位認定がなされる授業として恥ずべきことがないよう、講師の人選や講義内容について検討を重ねてきています。

学内には渡邊龍聖小樽高商初代校長由来の「実学、語学、品格」の碑があります。本講座では今後も「語学：国際的な視野に立てる人物」、「品格：紳士・淑女にふさわしい人格」の講師をお招きし、「実学：社会に有用な学問」を学生に提供していきたいと考えています。

令和2年度 エバーグリーン講座 日程

講演月日	講師氏名	卒年	講演テーマ	現職等
1 9月30日	緑丘会： 永井事務局長 実行委員会： 小椋委員長 担当教員： 大津 晶		緑丘会とエバーグリーン講座について	
2 10月7日	藤田 奈央 大野 匠太 菅沼 康太	H28	U-30企画 これからの仕事／これからの働き方	ヤフー アマゾン サイボウズ
3 10月14日	香山 リカ		卒業50周年（昭和45年卒）記念講演 「コロナ感染症は私たちの生き方をどう変えるか？—精神医療の現場から」	精神科医
4 10月21日	藤武 哲朗	S57	地方企業による地域活性化への取り組み	秋田県発酵工業株式会社 代表取締役社長
5 10月28日	平子 知明	H17	経験から形成されたキャリア観—「組織人」と「パラレルキャリア」	全国本田労働組合連合会 特別執行委員
6 11月4日	横山 英邦	H29	地域と観光 ～OBSで得たもの～	株式会社オルゴール堂ホールディングス 取締役 第2営業部 部長
7 11月18日	橋本 潤美	H8	"商大を卒業して、物流業界で働くということ ～札幌通運とロジネットジャパン～"	株式会社ロジネットジャパン 代表取締役社長
8 11月25日	山本 勝也	H26	キャリアの自己選択とたくさんの選択肢	日立産機システム 経営サポート本部 財務部
9 12月2日	木野内裕子	S56	『商工会議所の仕事とは？』～今が一番充実の仕事人生!?～	札幌商工会議所 人材確保・開発部 人材開発室 室長
10 12月9日	末長 守人	S60	地域の新たなエネルギー社会を創出する・北海道ガスの挑戦	北海道ガス株式会社 取締役常務執行役員
11 12月16日	向田 直範	S45	経済法と消費者の権利	弁護士、北海学園大学名誉教授
12 12月23日	富澤 克行	S58	中国製造業が取り組む、スマート製造の現状と日系企業のビジネスチャンス	三菱電機株式会社 執行役員・中国総代表
13 1月6日	寺西 正道	H17	公認会計士の仕事について	あずさ監査法人 シニア公認会計士
14 1月13日	栗山 規夫	H15	30歳で起業、IPOを目指すIT企業経営者の展望	株式会社ユニラボ 代表取締役CEO
15 1月20日	塚田みゆき	H1	地域振興からみた縄文世界遺産登録と日本遺産「炭鉄港」	北海道縄文世界遺産推進室長

小樽商科大学創立110周年記念募金 ご協力ありがとうございます

北海道庁内では、8年前に同窓の方を探して30人ほどで懇親会を行い、それ以降も継続して庁内の同窓の名簿を整理してきました。

今回、私が商大110周年の募金委員を拝命したことから、その名簿に掲載の約180名の方に、「コロナ禍でバイトがなく困窮している商大生のために」と声を掛けたところ、たくさんの賛同をいただきました。

中には、私と弓道部の同期で台湾支部の渡辺成朗代表や江別支部の後輩有志からも協力したいと申し出をいただき、結果、昭和59年～平成31年卒の25名の方から20万円をお預かりすることができました。また、寄付とは別に直接、現金や食料を輝光寮まで届けてくださった先輩もいらっしゃいました。

去る令和2年7月3日（金）の昼休みに庁内の後輩3名とともに札幌サテライトへ赴き、札幌支部の山田支部長へ贈呈させていただきました。

八十島 忍（平成5年卒）

左から

石本忠司氏（平成10年卒）

小坂もも氏（平成26年卒）

佐久間千絵瑠氏（平成26年卒）

山田支部長、八十島氏



左から深田氏、島崎理事長、橋本氏

8月7日、株式会社ロジネットジャパン本社（札幌市）にて同社グループの同窓生有志16名から20万円の寄付金を贈呈いただきました。同社からは既に会社として、大学宛に200万円の寄付をいただいております。今回は同窓生個人からの寄付になります。当日は代表取締役社長橋本潤美氏（平成8年卒）と総務担当次長深田亜矢子氏（平成10年卒）が代表して島崎理事長に目録を手渡されました。

公益社団法人緑丘会ホームページより

3年程前に、忘年会を兼ねて主に在札の競技スキー部OB数名が集まった時、故・新山邦幸先輩（昭和40年卒）から「大学創立百十周年記念募金」に100万円集めて贈ろうと提案がありました。その遺志を継いで、今回有志一同で55万円を寄付させていただきましたが、まだまだ目標額には未達です。全国の競技スキー部OBの皆様、2022年3月迄ですので、競技スキー部名での寄付をお願いします。

実行委員 大橋康孝（昭和50年卒）



小樽の宝『歴史的建造物』

はがき絵で伝えたい小樽の歴史的建造物への想い

山谷 智恵子
(平成9年卒)

私が理事を務めるNPO法人小樽民家再生プロジェクトでは今年度、小樽市から委託を受け、小樽市指定歴史的建造物第27号『旧寿原邸』の維持管理をすることになりました。コロナの影響により予定より遅れて、6月6日から無料で土日のみ一般開放をしました。理事が交代で受付を担当し、維持管理のお金を少しでも集めるべく、ささやかながら売店も設置しました。

観光に打撃を受ける小樽を応援すべく、当番の日には、朝早く出かけて、『石と鉄』で朝カフェしてから、旧寿原邸へ。小樽出身の若者が世界でいろんな経験を積んで再び小樽に戻ってきて、頑張っているの、少しでも助けになればという想いがありました。



そういう想いで始めた朝カフェだったのですが、毎回通っていると、すごいことに気づきました。『石と鉄』から『旧寿原邸』までの道のりが、歴史的建造物ストリートだったのです。



◎小樽市指定有形文化財『旧三井銀行小樽支店』
「ニトリ小樽芸術村」の施設の一つ。貸金庫が必見!



小樽市指定歴史的建造物第13号『旧小樽倉庫』の前の銅像『消防犬ぶん公』もっと有名になって欲しい!

いつも見慣れた景色だったのですが、朝から青空が広がっていたある日、その歴史的建造物がキラキラと輝いていたのです。感動して、写真を撮って、Facebookにアップすると、「秋空に名建築が映えますね」という工学博士からのコメントが!心が躍りました!

銀行建築、商工会議所、越中屋ホテル、石蔵に大豪邸の数々、圧巻です。札幌にこんな通りはありません。

◎小樽市指定歴史的建造物
第71号『旧板谷邸』
和風の母屋に続く洋館が特徴



◎小樽市指定歴史的建造物
第50号『水天宮本殿、拝殿』
三つの子鳥破風が特徴



◎小樽市指定歴史的建造物
第27号『旧寿原邸』
水天宮の丘の傾斜をつまく活用

他にはないお宝、これらの歴史的建造物を活用することが、小樽の活性化になると、改めて感じることができました。

『旧寿原邸』には数々の先輩、後輩が訪れてくださり、とても嬉しかったです!ありがとうございます!久しく小樽へいらしていない方もぜひ小樽へ足を運んでみてください。うまいけば、来年度も『旧寿原邸』でお会いできます。

今年度のMBA会の活動について（令和2年10月現在）

須川 正 啓

（平成18年商学部卒、平成26年OBS修了）

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、今年度のMBA会の活動については、前号にも掲載いたしましたが、以下の通りとなっております。

- ① MBA会の活動について「原則1年間の休止」とする。
- ② 定例行事（5月の総会・7月のビール会・9月の交流会）は中止とする。
- ③ 定期的に開催していた役員会についても当面の間、実施しない。
- ④ 役員会の再開の時期については、コロナウイルス関連対策について、国および道の公式発表などに準じて考慮する。目安が必要と思われるので、本年9月末日までは役員会活動を完全に休止し静観する期間とする。
- ⑤ 役員人事については「休止期間」ということを鑑みると、

任期満了につき役員を交代することも「休止」と考えるのが相当と思われるため、現役員をそのまま継続する。新体制は令和3年度からのスタートとする。

- ⑥ MBA会活動は休止するが、緑丘会札幌支部への支払い、および来年以降（20周年行事へのプール分も含む）の行事再開のために会費徴収は実施する。

緊急事態宣言が出た4月に役員会で協議した結果、以上の通り皆様にご連絡しております。

現時点では、役員会活動も再会できていない状況ではございますが、今後の活動再開及び会費徴収などのMBA会の活動につきまして、引き続きご理解・ご協力いただけますよう、心よりお願いいたします。

つながる。みつかる。仲間と走る。

長谷川 千 尋

（平成15年卒 緑丘RUNNERS管理人）

緑丘ランナーズは会員数58名（令和2年11月現在）、マスクやBuffをつけてコロナ禍でも新北海道スタイルで唯一活動を継続しているランニングチームです。

道内各地で練習会をしていますが、一番多い練習場所は小樽。やはり小樽は大事にしたいものを見つめ直す心のふるさと。在学中には出会えなかった場所、いつもなら通り過ぎてしまうところも自分の足で走って、感じることで、毎回新しい発見があります。

同窓の仲間とともに、あたたかな繋がり心地よい風を感じる機会をほぼ毎月開催しています。

コロナ禍ではオンライン集会も行い、終息後にぜひや

りたいことをシェア。“各地のマラソン大会にでて美味しいものを食べて回りたい！マニラやボストンマラソンに出たい（去年は緑丘ランナーズでホノルルマラソン出場）！冬の小樽を走って旨い酒と肴と朝まで！”皆さんと語りながら夢を膨らませ、やりたいことを実現するためにも、定期的に運動を取り入れて健康を維持する大切さを共有しました。

この夏・秋も情緒あふれる景観を楽しみながら快走。「ラン・風呂・ビア！（走って、汗を流して、乾杯）」を合言葉に個々のペースに合わせ参加できる輪です。ワクワクしながら健康維持されたい方はぜひご連絡ください。



2021年新年交礼会を中止いたします

未曾有の新型コロナウイルス感染は経済・医療・教育・スポーツなど総ての社会生活を抑制し混乱させました。緑丘会も大人数が集う活動が出来ず、再開の可能性を模索してまいりましたが、未だウイルスの勢力は衰えず、先の安息、収束が見通せないことから常任役員会一致の決議を以て、新年交礼会を中止いたします。何卒ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

緑丘サテライトセミナーや女子部会主催行事は、新型コロナの影響により今年度は開催できませんでしたが、2021年度に向けて皆様が安心して参加できるような企画を検討しております。支部ホームページやFacebookでお知らせいたしますので、多くの方のご参加をお待ちしております。

亡くなられた会員の皆様

(2020年5月～2020年11月受付)

卒業年	氏名	ご逝去日
昭和20年	唐川 修	2020年3月10日
昭和24年	加藤 晴夫	2015年4月18日
昭和25年	上野 誠司	2020年6月4日
昭和25年	佐野 康治	2018年11月24日
昭和29年	山岸 一映	2020年1月24日
昭和29年	掛田 正美	2020年7月7日
昭和29年	小山 勲	2020年10月12日
昭和30年	矢田 哲彦	2019年12月4日
昭和32年	谷藤 治見	2020年7月20日
昭和32年(短)	三上 勝美	2020年4月2日
昭和33年	岩原 芳男	2020年11月2日
昭和34年	黒田 邦臣	2020年8月16日
昭和36年	松山 宏道	2020年1月13日
昭和37年	伊藤 繁雄	2020年1月7日
昭和38年	谷内 昭治	2020年10月31日
昭和39年	中村 裕俊	2019年8月15日
昭和39年	磯尾 司	2020年4月18日
昭和39年	小倉 裕敬	2020年6月21日
昭和41年	佐々木 喜四	2020年7月19日
昭和42年(短)	佐藤 健一	2019年1月13日
昭和48年	中村 伸司	2019年10月4日
昭和48年	徳田 裕一	2020年5月29日
昭和50年	古崎 晃	2018年3月9日

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。(敬称略)

緑丘会札幌支部

電話/FAX: 011-231-6900

ホームページ <http://www.ryokyukai.com/>

メール: ryokyukai@galaxy.ocn.ne.jp

編集後記

2020年は、まさに「コロナ」に始まり、「コロナ」に終わった1年でした。

1月に中国・武漢で流行が確認されてから瞬く間に全世界へとウイルスは広がっていき、11月の段階では全世界で4500万人、日本でも10万人を超える感染者数となっています。

緑丘会札幌支部も、2月15日の新年交礼会を最後にイベントは中止となり、この1年はコロナの打撃をもらってしまいました。イベントを通じてたくさんの先輩・同期・後輩のみなさんとお会いできるチャンスでしたが、中止になってしまいとても残念です。

このコロナ禍、自宅にいる時間も増えたので、新しいチャレンジをしました。私ごとで大変恐縮ですが、趣味のクイズに磨きをかけていこうと、ICTを用いた学習サービス「スタディサプリ」で歴史の勉強を続けています。アカデミックな分野、特に歴史はクイズでよく出題されるのですが、忘れていたことも多く、学び直すことにしました。本格的な歴史の勉強は学生以来10年以上ぶり、中には史実が変わり、学生時代には得られなかった新たな発見もありました。

2021年もコロナとの戦いは続きます。まさに長期戦の様相です。これをポジティブに考えるとすれば、新しいチャレンジを通じて自分を成長させられる貴重なチャンスかもしれません。最後に、マスクの着用やアルコール消毒の徹底など、一人ひとりが日々予防対策をしっかりと続けていきましょう。果てしなき道のりですが、これが終息へ向けての大事な一歩だと思います。

広報部員 須川正啓

(平成18年商学部卒、平成26年OBS修了)

緑丘会札幌支部は、会員の皆様の会費によって運営されています。

札幌支部では、年会費として3,000円を申し受けております。郵便局、コンビニ振込の他、口座振替でのお支払いも可能です。

3年分、5年分とまとめ払いによるお得な割引制度もございます。ご協力よろしくお願い申し上げます。